HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Male patients with adult spinal deformity: sex differences in demographics, radiography, and complications

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 浜松医科大学
	公開日: 2025-12-08
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: WEI, Xuepeng, ウェイ, シュエペン
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000654

論文審査の結果の要旨

成人脊柱変形（ASD）は様々な原因により脊椎等の変形を来す疾患である。申請者らは、ASD 手術を受けた患者において、性差に基づく人口統計学的データ、X 線計測値、術後合併症の違いを明らかにすることを目的に研究を行った。

2011 年 3 月から 2021 年 3 月までに本学で ASD 手術を受けた患者を対象とし、性別で比較した。本研究は浜松医科大学生命科学・医学系研究倫理委員会の承認を得て実施された（承認番号 24-102）。

対象は 323 例（男性 46 例、女性 277 例）で、年齢には性別で有意差はなかった。男性は女性と比較して、喫煙率（32.6% vs 3.2%, p = 0.001）、心疾患（13.5% vs 4.0%, p = 0.034）、透析割合（10.8% vs 2.5%, p = 0.035）、Charlson 併存疾患指数（CCI）（平均 1.4 vs 0.8, p = 0.001）が高かった。また、男性では変性後側弯の割合が低く、神経筋疾患の割合が高かった。周術期合併症の全体的な発生率（19.6% vs 18.1%）には有意差はなかったが、手術部位感染は男性で有意に高く（15.2% vs 5.1%）、そのオッズ比（95%信頼区間）は 3.4（1.3-8.9）であった。

疾患により性差の特徴があり、性差を考慮した医学研究が推奨されている。本研究で、ASD については、男性患者は神経筋疾患、CCI、手術部位感染の頻度が高いことが明らかとなった。したがって、男性患者にはより慎重な術前評価と術中管理が求められる。

審査委員会では、ASD 患者において、神経筋疾患、術前の併存疾患、術後感染リスクが男性において高いことを初めて明らかにし、手術における留意点を提示したことを高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　尾島　俊之
　　副査　山内　克哉　　副査　五島　聡